

II 学科の教育

(4) 授業科目等の概要（平成31年度）

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間	授業方法
必須	人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、人間の尊厳の保持と自立した生活を支える必要性を理解し、介護場面における倫理場面に対応できるための基礎となる能力を養う。	1・前	30	講義
必須	人間関係とコミュニケーションⅠ	授業を通して、介護を必要とする人間の身体と心（感情）の密接な繋がりがりや時間的な経過（生育環境・社会環境）を包括的に理解し、その上でコミュニケーションが取れるようにする。	1・前	30	講義
必須	人間関係とコミュニケーションⅡ	聴覚（視覚）障害者とのコミュニケーションの方法と技術や、聴覚（視覚）障害者の生活と福祉用具とその特徴を学ぶ。	2・通	60	演習
必須	社会の理解	介護福祉士として職務を遂行する際に必要となるサービス利用主体である人の生活や社会背景、サービス利用に関わる主な法制度の仕組みについて理解する。	1・通	90	講義
選必	組織人間関係論	人間関係構築場面の考え方・スキルやツールを学び、実際に演習やロールプレイングで体験し技量を高める。イベントを実際に企画運営し、介護の現場でより良い人間関係を作るためのスキルを養い、協同するための諸要素を学ぶ。	1・前	30	講義
選必	介護特別演習	介護実習のまとめ及び復習を通して、現代社会における感性の理解と対人関係のあり方を学ぶ。	2・後	30	演習
必須	介護の基本Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護とは何かを介護が必要になった理由など歴史的にふれながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。自分たちの生活について、基本的な理解をしてから利用者の「生活ニーズ」や「その人らしさ」を大切にすることを学ぶ。 ・生活支援である身体介護、家事支援の意義を理解し尊厳を支える介護とは何か。QOLの考え方、ノーマライゼーションの実現。介護におけるICFのとらえ方を理解する。介護におけるリハビリテーションの考え方とリハビリテーション専門職との連携について学ぶ。 	1・通	60	講義
必須	介護の基本Ⅱ	介護実習に向けて、基礎となる介護技術を行う。	1・前	30	演習

必須	介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人の生活環境を学ぶ。また、介護従事者として、利用者の安全・安心に配慮した介護について理解し、自らの健康にも配慮した介護について理解する。	1・通	60	講義
必須	コミュニケーション技術	・介護におけるコミュニケーションの関係性について学ぶ。介護福祉士に求められるさまざまなコミュニケーション技法について、理論と事例を組み合わせる学ぶ。 ・コミュニケーション障害を理解し、障害のある利用者への対応の基本を踏まえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学ぶ。また、介護におけるチームのコミュニケーションを進める具体的な方法について学ぶ。	12・後前	60	演習
必須	生活支援技術Ⅰ	生活支援技術論に基づき、対象者に楽しさを引き出す実技・技術を学ぶ。個性性を重視し集団という実技を通じ、対応技術を学ぶ。高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ	2・通	60	演習
必須	生活支援技術Ⅱ	被服生活及び住生活の理解について学ぶ。家庭生活の意義と経営・管理について学ぶ。高齢者及び障がい者のための栄養と調理について学ぶ。	12・後前	90	演習
必須	生活支援技術Ⅲ	着脱、清潔保持、食事、排泄、移動、家事、睡眠及び終末期の意義を理解し、利用者の状況に応じた技術について演習を行いながら理解する。また、利用者の状況を考えながら、様々な援助方法を学ぶ。	12・後前	120	演習
必須	生活支援技術Ⅴ	利用者の状態状況に応じた自立支援について学ぶ。	2・後	30	演習
必須	介護過程Ⅰ	介護実習Ⅰ・Ⅱを踏まえて、実際の利用者に対しての個別介護計画を立案し修正できる能力を養う。また、介護サービス計画を専門職として立案し、他職種と連携できる能力を養う。さらに、提示した事例から個別援助計画を作成する。	1・通	90	演習
必須	介護過程Ⅱ	介護過程とは、継続した生活の一場面として捉えることを踏まえ、介護過程の展開が「情報収集→計画→実施→評価」の繰り返しであることを理解し、それぞれの段階における支援者の役割について学ぶ。	2・前	60	演習
必須	介護総合演習Ⅰ	介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類把握や記入の仕方、目標設定について学ぶ。また、実習終了後には、実習の振り返りを行う。	1・通	60	演習
必須	介護総合演習Ⅱ	介護福祉課程2年間の総仕上げとして、卒業研究を行う。卒業研究は介護実習での個別支援計画の実施結果を介護事例研究としてまとめることにより、学生自ら体験した介護実践を振り返り考察する能力を養う。	2・通	60	演習
必	介護実習Ⅰ	利用者の生活の場である多様な介護現場にお	12	26	実

須		いて、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションに実施、他職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた実習を行う。	・通	2	習
必須	介護実習Ⅱ	一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実施することに重点を置いた実習を行う。	2・前	188	実習
必須	発達と老化の理解	発達の観点から老化を理解し、老化に関する身体機能や心理の変化に関する基礎知識を習得する。	1・通	60	演習
必須	認知症の理解	認知症に関する基礎的知識を理解するとともに、認知症のある人の意思表示の困難さや認知症特有の世界を理解し、本人と家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2・通	60	演習
必須	障害の理解Ⅰ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2・後	30	講義
必須	障害の理解Ⅱ	障害というものが何なのか、何のために「障害」となっているのかを理解するための視点を習得する。障害を理解し、支援するためにどのような手立てを用いることが出来るのかを学ぶ。また、障害を知らない人に対してわかりやすく伝える方法について学ぶ。	2・後	30	講義
必須	こころとからだのしくみⅠ	介護技術、すべての介護の基礎となるこころとからだのしくみの人体の機能と構造について理解する。また、介護における注意点をこころとからだのしくみから理解する。	1・通	60	講義
必須	こころとからだのしくみⅡ	精神、心理などのメンタル面を主としたこころとからだのしくみを理解する。	2・後	30	講義
必須	こころとからだのしくみⅢ	人体の解剖・生理を踏まえて、終末期などを含めた全ての生活支援技術の根拠を深める学習とする。	2・前	30	講義
必須	医療的ケアⅠ	医療的ケアを安全、適切に実施するために必要な知識を習得する。医療的ケアの基礎が理解できる。喀痰吸引、経管栄養について必要な知識を身につける。	1・通	50	講義
必須	医療的ケアⅡ	医療的ケアを安全、適切に実施するために必要な技術を習得する。医療的ケアの基礎が理解でき、喀痰吸引、経管栄養について必要な知識を身につけ実施できる。	2・前	30	演習